

インフルエンザに用いる“くすり”について

富山労災病院薬剤部 感染制御専門薬剤師 かわい 河井 よしとも 良智

まだまだ厳しい寒さが続きますが、インフルエンザ対策はできていますか？

・**インフルエンザに用いるくすり**： インフルエンザにかかってしまった場合、インフルエンザ治療薬を用います。現在、インフルエンザの治療に使われている医療用医薬品は、タミフル（内用薬）、シンメトレル（内用薬）、イナビル（吸入薬）、リレンザ（吸入薬）、ラピアクタ（点滴注射薬）の5種類があり、どれもインフルエンザウイルスの増殖を抑える薬です。いったん体の中に入ったインフルエンザウイルスは猛烈な勢いで増え続けて、症状が出てから2～3日後（48～72時間後）に最も数が多くなります。ですから、ウイルスの量が最大になる前、つまり症状が出てから48時間以内に抗インフルエンザ薬を使って増殖を抑えれば、病気の期間を短くし、症状の悪化を防ぐことができると云われています。ウイルスの数が少ないほど効果が大きくなります。早めの治療ほど効果的です。

・**子どもの熱が高い時、家にある解熱剤をあげてもいい？**： 市販の解熱剤に含まれているアスピリン（サリチル酸系解熱鎮痛薬）は、15歳未満の子どもに使用すると、インフルエンザ脳症を引き起こす危険性があるとされています。解熱剤に含まれる他の成分（ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸）も脳症の状態を悪化させるものがあるので、解熱剤の使い方は、医師に必ず相談しましょう。

毎年この季節になるとインフルエンザが各地で猛威を振ります。手洗いは接触による感染を、うがいはその乾燥を防ぎます。しっかり予防してインフルエンザから身体を守りましょう。

参考文献：中外製薬インフルエンザ情報サービス<http://influenza.elan.ne.jp/index.php>

渡部 彰 編著、プライマリケアのためのインフルエンザ診療、2013-2014